

社会人学生に対応した情報基礎演習に関する研究

田中雅章・今光俊介・加藤成明*

Research on the basic information seminar to adult students

Masaaki TANAKA, Syunsuke IMAMITSU, Nariaki KATO*

私立大学では18歳人口の減少化にともない入学定員を確保するために様々な対策を工夫している。その一つに地域に開かれた大学として、社会人に再教育や資格、教職免許を取得させるケースが増えてきた。そうした社会人学生は何となく入学する学生よりも目的意識が高く、カリキュラム内容や使用する教材に対する評価が厳しい。それは、社会経験豊富な社会人であるからこそ、カリキュラムの制約上一般学生と同じように履修する科目に、不満の声があがっている。特に、すでにある程度の情報処理能力がある社会人学生や逆に初めてパソコンをさわる社会人学生にとって、一般学生向けの情報処理演習に対する不満の声が顕著である。

本研究は、実際に通信課程のスクーリングに受講した社会人学生を対象として、演習内容や教材に対する満足度のアンケートを実施した。受講生の情報処理技術に大きなばらつきがある混成演習の中で、受講生がそれなりに満足の得られるには、どのようなカリキュラム内容や教材に工夫にすればよいか、その研究成果を報告する。

1. はじめに

私立大学や短大にとって、「大学、冬の時代」、「大学の危機」ということばは、いまや切実なる現実の言葉となってきた。時代の波に取り残されぬよう、各大学はそれぞれ独自の特色を出しながらも、様々な改革を試みている。多様化する入試制度、学部学科の改組・リストラ、カリキュラム改定等である。それらの改革の目的は、まさに各大学が自らを存続させるための「生き残り」をかけた状況といえる。

このように大学の改革を余儀なくさせる決定的な要因は、18歳人口の減少と社会の変化があげられよう。私立大学において、18歳人口の減少や進学率の頭打ち状態は受験料収入や授業料の減少という、直接大学の財政的基盤に関係してくる。その対策のひとつとして、社会人や留学生の受け入れがある。とりわけ社会人入学生の受け入れを安直な拡大促進策とする大学も少なくない。大学が本気で社会人学生の受け入れを大学活性化のための方策のひとつであること

*愛知産業大学

を認識するならば、アメリカなど海外の大学のように社会人学生の要求に応えながらも大学教育の独自性を確保しつつ、この改革をより良い方向に進めるべきであろう。

さて、筆者らは通信教育課程で開設されている情報基礎演習を担当しており、その演習受講者のほとんどは社会人でしめられている。企業においては情報機器の導入が一般化されており、受講する社会人学生は、すでにある程度の情報機器に関する知識を有することが多い。中には、指導する側である講師以上の知識を修得している受講生もありえる。それに対して、まだパソコンを初めてさわるような入門者も受講しており、社会人学生の情報処理能力差は、一般学生のそれよりも大きいと言わざるを得ない。このように受講生に大きな能力差のある条件下で、情報処理演習を実施しなければならないケースは、一般学生も含めて増加する傾向にあると予想される。

本研究では、将来増加するであろうと予想される社会人学生が、より満足できるような教材や授業展開を試みたので、その実践内容を報告する。

2. 演習受講生のプロフィール

情報処理演習の理想を述べるならば、受講者本人の自己申告の上で能力別にクラス編成をすれば、演習の進度もスムーズなうえ受講生の満足度が高いであろう。しかし、連続した3日間のみでのスクーリングという制約の中で、パソコンの台数が足りる限りは、定職を持ち忙しい合間に都合をつけ、遠方よりはるばるやって来る受講生を受け入れるのが原則である。さらに、申し込みを締め切った後でないと受講生の人数が確定できない。さらに、講師はほぼ全員の受講生とは初対面である。そのうえ、演習教室や講師、TAの手配の関係で、受講生の情報技術の差がある混成演習を実施せざるを得ないのが現状である。

| 年齢層 | 1. 男性 | 2. 女性 |
|--------|--------|--------|
| 1. 10代 | | 4.5% |
| 2. 20代 | 30.0% | 50.0% |
| 3. 30代 | 43.3% | 18.2% |
| 4. 40代 | 10.0% | 13.6% |
| 5. 50代 | 6.7% | 9.1% |
| 6. 60代 | 6.7% | 4.5% |
| 7. 無回答 | 3.3% | |
| 計 | 100.0% | 100.0% |

表1 性別受講者年齢層

| 能力 | 人数 | 比率 |
|---------|----|--------|
| 1. 検定合格 | 6 | 11.3% |
| 2. 文章作成 | 21 | 39.6% |
| 3. 少しだけ | 23 | 43.4% |
| 4. 初めて | 3 | 5.7% |
| 計 | 53 | 100.0% |

表2 受講者の能力

今回、この演習では合計53名の学生が受講しており、その内訳は男性が30名、女性が22名である。性別×年齢層の割合については表1のように男性は30代を中心として、女性は20代を中心として10代から60代まで幅広い年齢層となっている。

次に、演習内容や進捗スピードを決定するために、演習初日に別紙1の自己申告アンケートを実施した。受講生の自己申告によると表2のように「すでに文章作成ができる受講生」が50%

ほどいるが、逆に「文章がまだ上手に作成できない受講生」が半数近くいることになる。そのうえ、入門者が約6%受講していることになる。これに対して、受講の必要がないと思われる情報処理能力が高い上級者が10%以上いることになる。

講師としては一般論として、一番人数が多い「2. 文書作成ができる」もしくは「3. 少しだけさわれる」のどちらかの受講者に演習ターゲットをあわせざるを得ないことになる。その場合、単純に考えれば、60%近くの受講生には十分な満足が得られないことになってしまうことになる。

3. 配慮したカリキュラム

これまで、一般学生を対象とした演習であれば、図入りのわかりやすいテキストに沿って、受講者の理解度を確認しながら進めればそれほど問題はなかった。しかし、今回のように年齢層が広範囲であり、しかも情報基礎能力も様々な場合では、今までの方法では通用しないうえ、受講生の満足度も得ることは少ないだろう。少なくとも、各受講者が得られるモノがあるようになるよう、下記のような工夫を行った。

1. 受講生は社会人であるため、受講生の能力分布を情報公開し、入門者には理解を上級者には協力をあおいだ。
2. 毎回、1日の演習が終わるごとに別紙2のアンケートを実施し、理解度を把握し進捗スピードの調整を行った。
3. 上級者はさらに素早い操作ができるよう、マウスの右ボタンの使い方やショートカットキーの使い方を指導した。
4. 基礎の仕上げである応用教材は、日常業務で使えるような公文書の作成とチラシの作成の作り方を指導した。1日目は、公文書中心の文書作成。2日目は、ポスターの作成。3日目は、チラシの作成を行った。
5. 課題は必ず印刷をし、受講生が操作を理解しているか確認を行った。

| | 1日目 | 2日目 | 3日目 |
|-------|--------|--------|--------|
| 1. よい | 55.8% | 69.6% | 71.4% |
| 2. 遅い | 19.2% | 15.2% | 8.2% |
| 3. 早い | 25.0% | 15.2% | 20.4% |
| 計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

表3 速度の満足度

それらの工夫の結果、各受講者の満足度の回答が、表3である。1日目は受講者にとってちょうどよい内容だったのは55.8%であったが、その不満は日に日に改善され、3日目では

71.4%の受講生がちょうどよい内容だったと回答している。しかし、3日目の内容はやや難しく、しかも受講生があせってしまい、操作の基本を無視して作成しようとしたためにかえって悪循環となりよけいな時間がかかり、時間内に完成したと思われる受講者は半数以下であった。そのためか、1日目ほどではないが、「3. ペースが速い」と感じた受講生が20.4%と増えてしまった。

個々の課題について自由記述から分析してみると、難しすぎてついていけないと感じペースが速いと回答しているもの、逆に易しすぎて時間があまってしまうペースが遅いと回答しているのが見られ、個人の能力差によるところが大きいと言わざるを得ない。

われわれが、どんなに教材や進め方に工夫を凝らしても、受講者の満足度を得るには限界があることがわかる。

4. 不満の解消

能力差がある混成演習の条件下で、教材や進め方の工夫のほかに、受講生の不満を解消するにはどうすればよいであろうか。今回は、講師とTA 2名の計3名の体制で演習を行った。全

| 必要な人数 | 比率 |
|-------|--------|
| 1人 | 16.7% |
| 2人 | 31.3% |
| 3人 | 16.7% |
| 4人 | 14.6% |
| 5人以上 | 20.8% |
| 計 | 100.0% |

表4 不足するTA数

演習終了後、別紙3のような受講後のアンケートを実施し、受講生に何名のTAが不足しているか尋ねたところ、表4のような回答が得られた。

筆者らのこれまでの経験では、一般学生を対象とした演習の場合は、受講者20名につき1名の指導者で対応できた。また、入門者を対象とした講習会では、受講者10名につき1名の指導者を必要とした。受講者の状況に応じてTAの手当をしないと、受講生がよく理解しないまま演習内容がドンドン先に進

んでしまうことがありがちとなる。

今回のアンケートによる自由記述を分析すると、「わからないところがあっても、近くにTAがいなかった。」「わからない人の対応をしている間に自分自身がわからなくなってしまった。」との回答が得られている。これは、表4の回答や自由記述から読みとれるように、今回のスタッフよりもさらに2名のTAを必要としていることがわかるであろう。もし、さらに2名から3名のTAを手当てしたならば、受講者の初心者不満はいくぶん解消され、満足度は向上し違った結果になったと想像される。

5. まとめ

今回は、情報基礎演習を一般学生とは異なる社会人受講生に対応するために様々な教材の準備や工夫を行った。社会人受講生が情報基礎演習を受講することによって得られたことをまとめると、次のようになる。

1. こまめなアンケートを実施し、受講生の実態をよく把握することである。
2. ソフトの機能説明に終わらずに実用的な応用例を総合課題として受講生の満足度を高める工夫が必要である。
3. 上級者はさらにステップアップできるように便利な方法や効率のよい方法を指導すると満足度が大きい。
4. 入門者や初級者対策は、十分なTAを配置することにより、つまづきを未然に防ぎ演習に

取り残されることが少なくなる。

今回、社会人受講生に対応するために工夫したことやアンケートから得られて結果は、これだけではない。すでに高校で実施されている新教科「情報」をマスターした学生とそうでない学生が入学してきたときの情報リテラシー教育にもつながるのではないかと考えている。

参考文献

- [1] 鈴木令子・山崎秀記,「一橋大学におけるリテラシー教育と環境について」平成14年度情報処理研究集会講演論文集
- [2] 石田雅・大野賢一・鈴木輝博・穂山知文・木村晃「コンピュータ・リテラシ教育と講義コンテンツの検討」平成14年度情報処理研究集会講演論文集

コンピュータ実習 事前アンケート

このアンケートの目的は、受講生のみなさんがコンピュータをどの程度ご存じなのか、講師が把握するためです。ご回答いただいた内容によって、進めるスピードを調整したいと考えています

少しでも理解していただけるよう補助プリントなどを準備しますので、忌憚のないご回答をお願いします

○ パソコンは、どの程度使えますか

1. ワープロ検定合格者
2. が作成できる
3. 少しさわられる程度
4. ほとんどさわったことがない

○ ローマ字は、どの程度ご存じですか

1. 完全にわかる
2. ほとんどわかる
3. 「てゃ」などの拗音でわからないのがある
4. ほとんどわからない

○ 情報処理の専門用語は、どの程度ご存じですか

1. 完全にわかる
2. ほとんどわかる
3. あまり自信がない
4. ほとんどわからない

○ 事前に何か勉強してきましたか

1. しなくても大丈夫
2. 十分に勉強をしてきた
3. 少し勉強をしてきた
3. 何も勉強をしていない
5. 何をすればいいのかわからなかった

演習を進めるうえで、何か希望はありませんか。要望や質問など、何でも結構です。ご自由にお書き下さい。

みなさんのご要望に応えられるよう、努めたいと思っております。

コンピュータ実習 受講アンケート

このアンケートの目的は、受講生のみなさんがコンピュータ実習でどこが分かりにくいのかを把握するためです

ご回答いただいた内容を参考とし、より理解しやすいよう分かりやすい補助プリントなどに改めるために実施します。忌憚のないご回答をお願いします

- テキストの内容は、どうですか
 - 1. わかりやすい 2. まあまあ 3. わかりにくい

- 補助プリントの内容は、どうですか
 - 1. わかりやすい 2. まあまあ 3. わかりにくい

- 講師の説明は、どうですか
 - 1. わかりやすい 2. まあまあ 3. わかりにくい

- 実習を進める、スピードはどうですか
 - 1. ちょうどよい 2. 遅い 3. もっと遅くしてほしい

何が分かりにくいのか、どこが理解しにくいのか、要望や質問など、何でも結構です。ご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございます。みなさんのご要望に応えられるよう、努めたいと思っております。

コンピュータ実習 受講後アンケート

今後の演習や教材の参考にしますので、ご協力ください。

- 性別をお願いします。
 - 1. 男性 2. 女性

 - 年齢はおいくつですか
 - 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代以上

 - ローマ字は、どうでしたか
 - 1. 完璧 2. ほとんど大丈夫 3. 少し知らなかった名 4. だいたい知らなかった

 - パソコンは、ご自分でどのくらいできると思われますか。
 - 1. 入門者 2. 初心者 3. 中級者 4. 上級者

 - 文字の入カスピードは、どのくらいでしたか。
 - 1. 200文字以下 2. 300文字以下 3. 400文字以下
 - 4. 500文字以下 5. 500文字以上

 - 今回の内容で、楽しかったものはどれですか。いくつでも選んでください。
 - 1. テキスト 2. ティップス（裏技） 3. レポート例
 - 4. 速度試験 5. ビジネス文書 6. 像付標語 7. ポスター

 - 今回の内容で、よかったものはどれですか。いくつでも選んでください。
 - 1. テキスト 2. ティップス（裏技） 3. レポート例
 - 4. 速度試験 5. ビジネス文書 6. 画像付標語 7. ポスター

 - 今回の内容で、不要なものはどれですか。いくつでも選んでください。
 - 1. テキスト 2. ティップス（裏技） 3. レポート例
 - 4. 速度試験 5. ビジネス文書 6. 画像付標語 7. ポスター

 - 演習を進める、スピードはどうですか。
 - 1. ちょうどよい 2. 遅い 3. もっと遅くしてほしい

 - 補助の先生は、後何人くらい必要と思いますか。
 - 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上

 - もっとわかりやすい演習にするには、どうすればいいでしょうか。思いついたことで結構です。また、要望がありましたら、自由にお書きください。
-
-

ご協力、ありがとうございます。